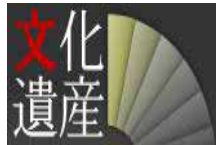




「メタデータを活用した文化遺産情報の ネットワーク利活用に資する技術の開発・実証」

2005.3.3

総務省



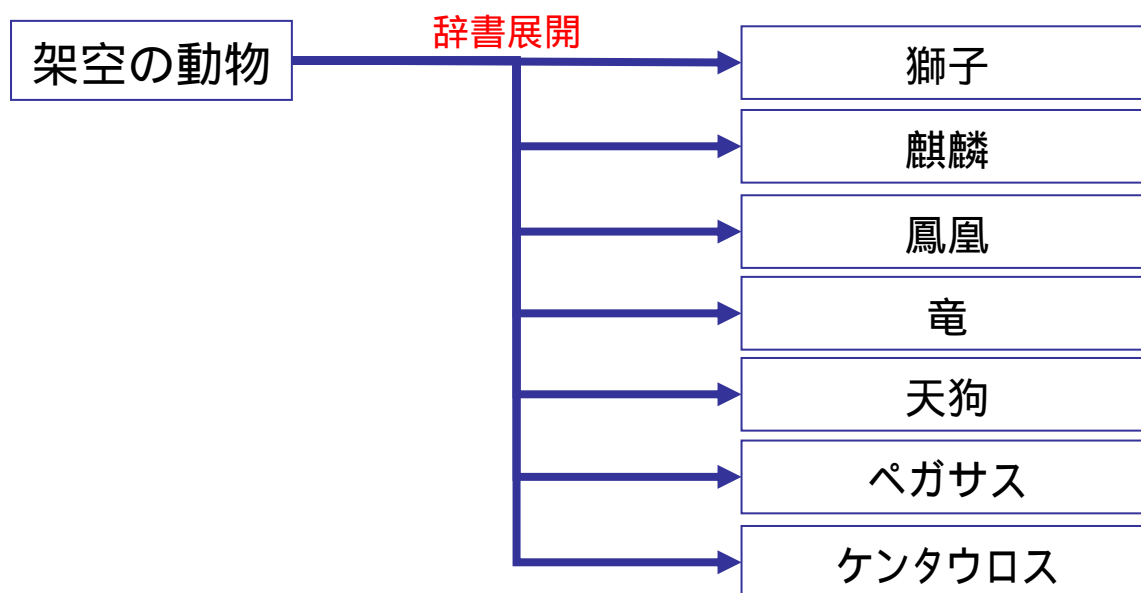
参考資料

- (参考) シソーラス辞書
- (参考) 形態素解析
- (参考) 関連技術の紹介
- (参考) 連携企画展示テーマ案(1)
- (参考) 連携企画展示テーマ案(2)

シソーラス辞書

- ・シソーラスとは、単語の上位 / 下位関係、部分 / 全体関係、同義関係、類義関係などによって単語を分類し、体系づけた辞書。
- ・検索システムに用いる場合、ユーザには「適切なキーワードが見つからないときの手がかり」「思わぬ同義語や類義語の発見」などのメリットがある。

本実験のあいまい検索では、「架空の動物」という1つのジャンルについてのみ下記のような辞書を作成している。



検索時のシソーラス辞書については、現在様々な研究がなされている。本実験では、どういうシソーラス辞書を持つべきかという問題には触れず、あくまで実験上の例示のためその一形態を採用している。

形態素解析

形態素解析とは、**自然言語処理**の基礎技術のひとつで、**自然言語**で書かれた文を**形態素**（おおまかにいえば「**単語**」）の列に分割し、**品詞**を見分ける作業である。

本実験の自由文検索では、入力された文章をフリーツールにより形態素解析を行い、「名詞」「形容詞」「未知語」を抜き出してキーワードとしている。

例：「印象的な肖像画の作品」

形態素
に分解

印象 的 な 肖像 画 の 作品

名詞、形容詞、未知語に当たるワードを抽出

例文が自由文検索された場合、「印象」、「的」、「肖像」、「画」、「作品」の5つのキーワードが抽出され、AND検索される。

この問題には、形態素の境界判別や、品詞の判別をはじめ、多くの問題要素があり、その解決手法には様々な研究がなされている。本実験では、これらの問題には触れず、あくまで実験上の例示のためその一形態を採用している。

SecureCanvas®

技術の特徴

独自フォーマットファイルとして出力されます

2枚の相殺するノイズの載った画像ファイルを交互に高速描画することによって、あたかも1枚の画像ファイルとして開いているように見せます

画面ダンプ(スクリーンショット)を行うと、いずれか片方の不十分な画像のみが印刷されます

プリントアウトの場合も同様で、いずれか片方の不十分な画像のみが印刷されます

2枚の画像を取得し、複合しても原画像には完全には戻りません(コピーライト当の文字を残す等)

閲覧にはブラウザと専用プラグインが必要です

< 例 >



処理された2枚の画像の高速交互表示により
ブラウザ上ではあたかも1枚の画像のように...

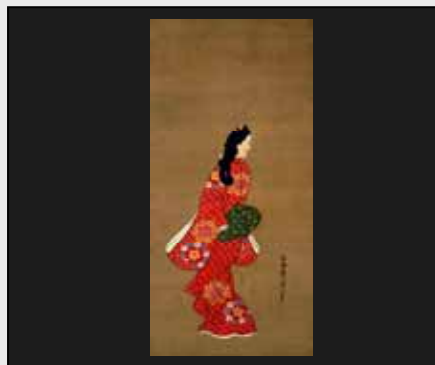
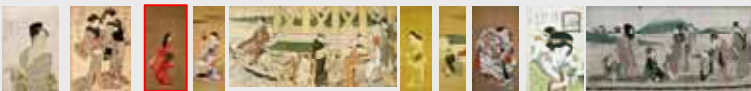
コンテンツ権利保護技術処理後

連携企画展示テーマ案(1)

— 美人画にみる江戸の粋と艶 —

風俗画の新様式「浮世絵」の本流ともいえる画題は「美人画」と「役者絵」でした。
美人画の名品を題材に、江戸の文化が持つ精神性と現代にも通低する美的センスを検証していきます。

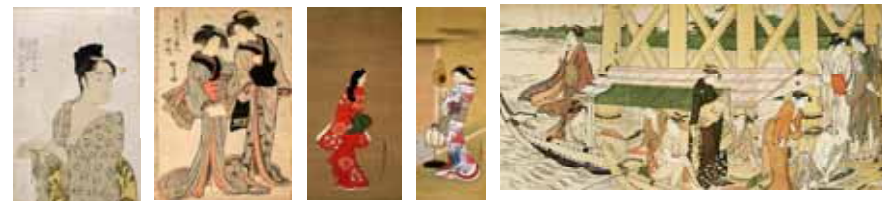
江戸の美人画



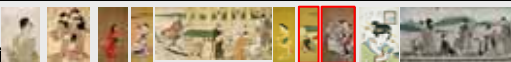
菱川師宣の信頼できる肉筆画の中で…ふと足を止めて振り返った印象的な姿は、まさに「菱川様の吾妻倂」(『虚栗』)と謳われたそのものである。

拡大

見返り美人図
菱川師宣
63.0x31.2
江戸時代
東京国立博物館 所蔵



江戸の美人画



遊君禿図
川又 常正
86.2x26.5
江戸時代
奈良県立美術館 所蔵

拡大



遊女と禿図
懐月堂安度
93.9x50.9
江戸時代
東京国立博物館 所蔵

拡大

いたずらに伝統的画法を固守することなく時代の趣向を捉えた風俗画。初期の肉筆浮世絵にはじまり、清長、歌麿の2大巨匠を経て幕末へと連なる江戸浮世絵の系譜は、そのまま近世日本の民衆の生活パワーを絵師の斬新な感覚で描ききった風俗画の流れでもあります。

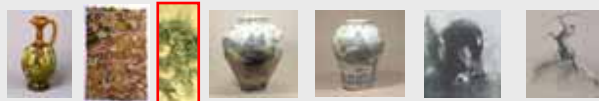
「美人画」「江戸」等をキーワード

連携企画展示テーマ案(2)

— 美術品にみる幻の生き物たち —

洋の東西を問わず、幻想の動物は神話やフォークロアのなかに数多く扱われてきました。美術品・工芸品に描かれた幻の生き物に込められた象徴性をもとに、文化の歴史・系譜とその多様性を探っていきます。

幻の生き物



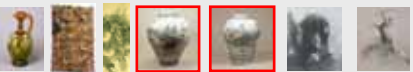
…爪を曲げ前方を睨(にら)む龍の姿には力がみなぎり、周囲の空気と水は激しい動きを見せています。画面の向かって左下に「癸巳秋日寫 與児成業 (白文方印「成昌之印」) (白文長方印「竹洞」)」という筆者の落款があり、…

子母龍図 (しばりゅうず)
1833年(天保4年)
絹本墨画
131.7 × 50.2cm
奈良県立美術館 所蔵

拡大



幻の生き物



青花 龍文壺
朝鮮時代
大阪東洋陶磁美術館 所蔵

拡大

青花 龍文壺
朝鮮時代
大阪東洋陶磁美術館 所蔵

拡大

幻の生き物は、世界中の各々の地域の歴史・文化の中で、時に神であったり精霊であったり、吉凶の前兆であったり権力の象徴であったりします。古来中国では、「龍」は皇帝のシンボルである一方で、西洋の「ドラゴン」は悪魔の生物として多く位置づけられています。美術品・工芸品の意匠性や美的価値とともにそこに込められた象徴性を文化の歴史から探ることができます。「架空の動物」等をキーワード